

(様式1・小学校用①)

令和3年度 学 校 評 価 報 告

草加市立高砂小学校

(令和4年2月1日作成)

1 学校教育目標	
◎学校教育目標 あかるく かしく たくましく ○キャッチフレーズ 笑顔・やさしさ・パワーあふれる学校 高砂小	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
○「魅力ある授業」－児童が意欲的で主体的に取り組む－を実践する ○児童が主体的に目標を設定し、力一杯運動できる体育授業をつくり上げる。 ○「特別の教科 道徳」を中心に全教育活動を通して他者を思いやる人間関係を形成する。 ○目指す子ども像を共有化し具体的な活動を通して15年間の成長を実現する。	成果 ○市教委研究委嘱で一貫教育の発表会を実施し、児童の自己肯定感・自己有用感を高める授業を実践することができた。 ○コロナ禍において学校運営に困難な場面もあったがチームとしてピンチをチャンスに変えた。 課題 ●一人一役の校務分掌を生かしながらチームとして学校教育の効果が最大限に発揮されるように努める ●働き方改革及び業務改善をさらに進め、学力の向上に努める。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○学校経営方針が全職員に浸透し、教職員が一丸となって教育活動に専念することで、教育活動を着実に推進できた。 ●教職員数や教職員の異動が多く、共通理解・共通行動が徹底されていない場面もあり、今後も情報共有の仕方を工夫し、共通理解を進めていきたい。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○自己肯定感・自己有用感を育む授業改善を目指して、小中一貫した研究を推進することができた。授業公開など、教員の学び合う機会も多く設けることができた。 ●これまで築いてきた授業スタイルを共通理解・共通指導ができるように研究を進めていきたい。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○複合施設として、保育園・コミュニティセンター・児童クラブとの合同避難訓練を実施し、実践的な訓練ができた。不審者対応研修会を実施し、不審者対応訓練も実施予定である。 ●いつでも、どこでも自分の命が守れるように、児童が自ら判断して避難行動ができるようにしていきたい。

④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	B	<p>○情報管理・施設設備管理について日頃より危機意識をもって取り組むことができた。校務支援システムも効果的に活用できた。</p> <p>●使用したものが戻されず、活動に支障をきたす場面が見られた。各主任を中心に管理の徹底を進めたい。</p>
⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	B	<p>○学校ホームページやメールシステムを積極的に活用して、学校の様子を周知することができた。学校運営協議会の意見も取り入れた調和のとれた学校運営を進めた。</p> <p>●コロナ禍のため難しい面もあるが、地域の様々な人材を確保し、学校応援団を充実させていきたい。</p>
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	A	<p>○年度初めに中学校区の会議で、幼保小中を一貫した教育についての共通理解を図り、中学校区の目指す児童生徒像の実現のため、本校における取組を推進できた。</p> <p>●コロナ禍のため、例年実施している幼保との交流活動が難しい面があった。今後は、実施可能な交流から再開させ、一貫教育を進めていきたい。</p>

(様式1・小学校用②)

草加市立高砂小学校				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保 	A	<p>○コロナ禍であったが、授業時数を確保し、円滑に教育計画を実施できた。</p> <p>●コロナ禍だからこそ、今後も柔軟に教育課程を実施していく必要がある。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用 	B	<p>○市の研究委嘱を受け、授業改善を充実させ、学力向上に取り組めた。</p> <p>●コロナ禍での、外部人材の活用の困難な場面があった。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進 	A	<p>○道徳の研究授業を通し、質の高い道徳教育を実践することができた。</p> <p>●道徳の評価等、さらに改善を行い授業を充実させる。</p>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・各教科、道徳教育との関連 ・中学校との連携 	B	<p>○外国語専科教諭と担任が連携を密にし、家庭での取組等充実が見られた。</p> <p>●乗り入れ授業等、中学校との更なる連携を進めていく。</p>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・児童会活動 	B	<p>○感染症対策を講じ、安全かつ円滑に学校行事を実施することができた。</p> <p>●特別活動の授業の研修を行い、校内での共通理解を行う。</p>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	B	<p>○枝豆の栽培等、体験的な学習を充実させることができた。</p> <p>●評価方法等、校内研修を行い、充実を図る。</p>

⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○定期的に会議を行い、校内での共通理解・共通行動の徹底ができた。また、外部機関との密に連携を取り対応が行えた。</p> <p>●今後も、チームとして組織的に問題解決に取り組む。</p>
⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化 	B	<p>○全学年でキャリアパスポートの活用を行った。</p> <p>●各学年でのキャリア教育の取組をさらに充実させる必要がある。</p>
⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	B	<p>○教育支援室等、他機関と連携しながら一人一人を大切に特別支援教育を推進できた。</p> <p>●校内研修をさらに充実させ、新しい問題等にも対応できるようにする。</p>
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<p>○読書賞状や図書委員会の活動等、読書に親しむ児童が多く見られた。</p> <p>●よく読む児童と読まない児童の2極化の改善を行う。</p>
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	A	<p>○オンライン授業の実施とICT機器を使った授業の充実が見られた。</p> <p>●さらに、研修を進め、ICT機器の活用を進めていく。</p>
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<p>○校内研修や職員会議での啓発により、職員の人権感覚を高めることができた。</p> <p>●保護者等、郊外と連携した人権教育の充実を行う。</p>

(様式1・小学校用③)

草加市立 小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①学校教育目標 あかるく かしこく たくましく の具現化	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・組織的な対応 ・基本的生活習慣の定着 	A	<p>○自己肯定感・自己有用感をはぐくむ研究に取り組み、児童は明るく友達を認め合いながら学校生活を共に過ごすことができている。</p> <p>●さらにわかりやすい授業づくりに取り組み、学力向上に取り組む。改善されてきてはいるが、地域へのあいさつは課題であり、引き続き指導を行っていく。</p>
	②開かれた学校 家庭・地域・社会 との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・環境整備 ・人材の活用 	B	<p>○学校運営協議会を5回実施予定であり、定期的に開催することで学校運営に意見を反映させることができた。</p> <p>●コロナ禍でのオンラインでの人材活用等検討の必要がある。</p>
	③働き方改革を柱とした業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務削減 ・校務の精選 ・環境整備 	B	<p>○集金の口座引き落としや、時間外勤務時間が減る等大きな成果が見られた。</p> <p>●環境の改善や根本的な業務量の削減等引き続き改善を行っていく。</p>

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・感染症対策を講じながら、子どもたちが自己肯定感、自己有用感を育みながら学校生活を送ることができた。
- ・校長のリーダーシップのもと、教職員ハンドブックによって共通理解・共通行動をとりチーム高砂小として教育活動が進められている。
- ・校内危険箇所の点検や修繕等、児童が安全・安心に学校生活を送れるよう職員が危機管理意識を高く保ち、教育活動に取り組んでいる。
- ・学校運営協議会やPTA等、地域とともにお互いの理解を深め、手を取り合いながら、コロナ禍での感染対策を講じながら、学校生活を充実させたものになっている。

6 次年度の改善策

- ・研修のテーマにより、自己肯定感、自己有用感をはぐくむことができたが、今後も児童の自己肯定感、事項有用感をはぐくむ授業づくりを推進していく。
- ・コロナ禍で中止になってしまった行事等、感染症対策等を講じ、時間や準備等の削減を行い、次年度に向け計画を行う。
- ・人事評価制度を活用し、職員の特性がさらに発揮されるよう校務分掌を行い、チーム高砂小としての教育効果のさらなるパワーアップを図る。
- ・ICT機器の活用やオンラインでの授業をさらに充実させ、新しい教育を発信できるよう充実させていく。